

「ソーシャルビジネスのための Web サービスと顧客の創造」申請

1. 研究会名

ソーシャルビジネスのための Web サービスと顧客の創造

2. 研究テーマ

本研究会では、2008年4月に経済産業省が取りまとめた「ソーシャルビジネス研究会報告書」に基づく社会性、事業性、革新性を実現する情報システムを、Web2.0的技術とオープンソースソフトウェアの活用によって実現することで新たな顧客を創造する Web サービスのビジネスモデルを提案する。

3. 主査氏名、所属、連絡先

氏名：小碓暉雄 (コイカリテルオ)

所属：株式会社シーエーエル顧問、NPO 法人オープンソースソフトウェア協会理事
NPO 法人地域自立ソフトウェア連携機構理事

連絡先：koikari_teruo cal.ne.jp (■は @ に置き換えてください)

4. 幹事氏名、所属、連絡先

氏名：高橋英夫

所属：株式会社シーエーエル代表取締役会長

連絡先：takahashi cal.ne.jp (■は @ に置き換えてください)

5. 研究テーマ設置の趣旨

経済産業省が2008年4月3日公表の「ソーシャルビジネス研究会報告書」

(<http://www.meti.go.jp/press/20080403005/20080403005.html>)

にある日本の社会的課題、特に環境問題、少子高齢化、人口の都市集中と地域の空洞化、ライフスタイルや就労環境の変化等に対して、サイバー化社会の Web2.0 潮流に伴う介護、介助、福祉、地域活性化、中小企業活性化等のための問題解決となる最適な情報システムサービスが求められている。

Web2.0 という潮流とともに、Web が情報システムの基盤となり、サービスとしてのソフトウェアは、ベンダーによる囲い込み (ベンダーロックイン) から開放され、コミュニティの集合知が発揮される優れたオープンソースソフトウェア (OSS)、或いは OSS とは限らず、特に日本の ICT 産業の失われた 10 年、20 年を回復する一助として、日本産ソフトウェアを積極的に活用してゆきたい。

<例>

・機能性に優れたホームページ構築のために、自治体や中小企業での活用普及が進む Ruby/Ruby on Rails で開発された CMS 「Joruri (ジョールリ)」

- ・国立情報学研究所 (<http://www.nii.ac.jp/>) 及びコンソーシアムが開発の情報共有基盤システム NetCommons
- ・日本的な人と人の繋がり社会に合った国産 SNS の mixi、GREE や mixi クローン版 OSS の日本産 OpenPNE (オープンピーネと呼ぶ)

キーテクノロジーとして、OSS や Web サービスとして API が公開された既存のソフトウェアのマッシュアップ (組合せ) 技術を駆使することにより、原則としてソフトウェアの開発はしない。

6. 主たる活動場所

株式会社シーエーエル及びメンバーのオフィス又は公共施設

7. 活動計画 (概要)

活動期間を2年として、概ね半年ごとに段階を分け、3ヶ月に1度程度の頻度で会合をもつ。会合案内は、ISSJ 会員に公開する。

第1段階：ソリューションビジネスのケーススタディ (実践者とのヒアリング等) と、当研究会での対象ソリューション課題の見極め

第2段階：概要設計、ソリューション課題の概念モデル化

第3段階：使える Web サービス及び Web 技術のケーススタディと、概念モデルの実装方式を研究

第4段階：ビジネスモデルの設計、まとめ

2年後、以上の成果発表を研究発表大会及びメルマガで公表する。

8. メンバー構成

メンバー構成は、研究会の進捗とともに会員及び非会員からの増強や改選をしてゆく。

主査 小碓暉雄 (個人会員)

幹事 高橋英夫 (賛助会員)

メンバー 飯田芳明 株式会社シーエーエル 代表取締役社長 (賛助会員)

メンバー 中村 徹 株式会社たけびし 取締役常務執行役員

メンバー 木村 修 株式会社E & D 代表取締役

メンバー 川向正明 SOHO